

平成22年度農作物病害虫発生予察技術資料第7号

平成22年(2010年)8月18日
山口県病害虫防除所

トビイロウンカの長期予報

本年のイネのトビイロウンカの発生型予測については、以下のとおりです。今後の防除対策の参考にしてください。

1 予報内容

(1) 対象地域 県内全域

(2) 今後の予測

ア 過去の発生データを利用した解析方法による予測では、8月2日に発表した長期予報(技術資料第5号)の予測結果と同様、「少発生型」になる確率が高い(発生型については参考資料を参照のこと)。

イ 本年の坪枯れは少なく、局所的な発生にとどまると予測される。

2 防除対策

(1) 本年は発生密度が低く、このまま推移すれば防除の必要性は低い。

ただし、ヒノヒカリ等中生種においては一部で発生密度が高いほ場が確認されており適切な防除が必要である。ほ場で防除適期に発生密度を確認のうえ、防除の目安を超えるほ場は直ちに防除を実施する。

(2) 防除適期(図を参照)

8月25日～9月1日頃(7月12日飛来波の第2世代幼虫最盛期)

9月11日～20日頃(6月27日飛来波の第3世代幼虫最盛期)

(3) 防除の目安

8月中旬～9月上旬は1株当たり成幼虫5頭以上

(4) 防除の際は、薬剤が株元までかかるよう丁寧に散布する。

3 発生状況

(1) 8月中旬の巡回調査では、発生ほ場率は11.6%(平年16.7%)、10株当たり虫数は0.03頭(平年0.30頭)で平年並みであった。

(2) 飛来日は、6月27日(やや少)、7月12日(並)頃と推測された。

(3) 予察灯での誘殺数(4か所、6月1日～8月10日)は、2頭(平年31.2頭)で平年に比べやや少なかった。

4 その他

今回の予測は本年の最終予測である。

